

## 第5学年「図工」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 材料の特徴を理解し、それらを生かしながら制作する習慣が身に付き始めている。
- 他者の表現に興味を持ち、自身の作品をより良くするために学ぶ意欲がある。
- 課題** ▼ 鑑賞の授業では、集中力が続き辛い。
- ▼ 他者の表現に引っ張られて独自の視点をもって活動に取り組むことが苦手な児童がいる。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 造形的な良さや美しさを感じ取り、自分の感性を高めていく力。
- ◇ 形や色などの造形的な特徴を元に、自分のイメージをもつ力。
- ◇ 形や色などの造形的な特徴を理解する力。

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- めあてを具体的に提示し、その日のゴールを明確にする。
- 材料や用具の特徴が伝わるように素材や表現方法を比べて表現の多様さを示す。

#### 言語活動の工夫

- 作品の題名や、頑張り・工夫したことを考え、他者に伝わるように作品シートに書く。
- 鑑賞の際に他者の作品の魅力や工夫を言葉にしたり文章に書き起こしたりする。

#### ICT活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

#### 課題解決力育成の工夫

- 「発見タイム」を設け、友達の作品の良さや工夫を見付け、自分の制作に生かしていく。
- 自分のイメージを周りの友達や教員に共有しながら共に考えていくように促す。

### 達成目標

- 材料や用具を活用し、表し方などを工夫して創造的につくり、表すことができる。
- 表したいこと、表し方などについて考え、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。